ハンドマイク街頭演説原稿例　「原発最大限活用」転換許せない

二〇二三年二月十四日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。この場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　岸田内閣は二月十日、原子力発電所の「最大限活用」を明記した「グリーントランスフォーメーション・ＧＸ実現に向けた基本方針」を閣議決定しました。二〇一一年三月の東日本大震災・福島第一原発事故の教訓や反省を無視し、原発頼みの姿勢に後戻りする岸田自公政権に、日本共産党は強く抗議します。

　基本方針は、「原則４０年・最長６０年」としている運転期間の上限を事実上なくします。「安全対策」などのため停止していた期間を運転期間から除くことで、６０年を超えた運転を可能にするものです。運転期間の上限規制は、福島原発事故の後に、当時の民主党政権と自民党・公明党が合意して導入したものです。原子炉は運転していなくても、原子炉はじめ設備の経年劣化は進みます。原発の危険を少しでも減らすために作った運転期間の上限ルールをなくすことは、安全対策の逆行そのものです。

　６０年を超えても運転することについての新しい規制制度案について議論した原子力規制委員会では、地震や津波の対策の審査を担当する委員から強い反対意見が出されていました。専門家からの強い反対を無視して、運転期間の上限をなくすと決定した政府のやり方は大変重大で、危険です。日本は地震・津波が多く、人間の力で発生を止めることはできません。こんな日本で原発を推進することは、国民の命と安全、国土を危険にさらし続けることになるのではないでしょうか。

　みなさん、基本方針では、新しい「次世代革新炉」を、廃炉が決まった原発の敷地内での建て替えで進めるとしています。福島原発事故の後、自民党は新増設や建て替えは考えていないと繰り返し、昨年７月の参議院選挙でも、この問題は公約に一切ありませんでした。それが選挙後の８月末になって岸田首相が突然の方針転換を指示し、原発推進派の委員が圧倒的多数を占める政府の会議にかけ、わずか５カ月あまりで決定していまいました。選挙ではだんまりを決め込み、国会での説明も避け、「結論ありき」で一方的に決めるなど、民主主義の破壊ではないでしょうか。

　基本方針は、脱炭素や電力安定供給を「原発の最大限活用」の口実にしています。しかし原発に固執することで、気候危機打開のために必要不可欠な省エネと再生可能エネルギーの普及・拡大をさまたげています。電力の安定供給についても、原発は基本的にオンかオフしかなく、出力量の調整ができません。いずれも、原発頼みから抜け出すことこそが解決策につながる課題です。日本共産党は電力の安定供給、気候危機の打開、国民の命と安全、国土を守るためにも、原発ゼロへの転換こそ必要だと提案しています。

　この機会に日本共産党の発行する「しんぶん赤旗」をお読みいただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）